



令和3年11月11日
統合幕僚監部

米インド太平洋軍司令官との共同部隊訪問及びジョイント・シニアリーダーシップ・セミナー（J-SLS）の実施について

統合幕僚長山崎幸二陸将は、米インド太平洋軍司令官ジョン・アクイリーノ海軍大将と令和3年11月8日（月）から9日（火）の間、那覇基地、奄美駐屯地及び与那国駐屯地への共同部隊訪問を実施し、それに続く令和3年11月9日（火）及び10日（水）、東京において、第10回ジョイント・シニアリーダーシップ・セミナー（J-SLS）を行いました。

共同部隊訪問では、南西地域の現状について認識を共有するとともに、自衛隊の部隊配備・活動の状況を現地で確認しました。J-SLSでは、インド太平洋地域における安全保障環境について認識を共有するとともに、将来の日米防衛協力の方向性について意見交換を行い、地域の平和と安定の確保のため、日米が共同で取り組む事項や、日米協力の深化等、多岐にわたる議論を行いました。その上で、両者は、共通の安全保障上の課題及び同盟強化に係る認識の統一を図ることが、平時及び有事を問わず日米共同による活動をシームレスに行う上で最も重要であるとの認識で一致しました。

協議の中で、山崎統幕長は、「激変する安全保障環境の中であって、日米同盟はこれまでの60年余、変わらず地域の平和と安定の礎であり続けてきた。そして、今後もあり続ける。そのために私はアクイリーノ司令官と今回の協議のように、常に将来の方向性に関するビジョンを共有し、共同訓練等実効的な取組を重ね、あらゆる事態に即応していく。」と述べたのに対し、アクイリーノ司令官は、「自衛隊と米軍の間の強固な絆は、日米同盟の重要な側面を代表するものであり、我々が共有する自由、民主主義、人権及び法の支配等の普遍的価値への献身は、我々の絆をより強固にし、今回のJ-SLSのようなイベントが明日の課題へ共同して備えることについての助けとなる。」と応じました。

さらに両者はインド太平洋地域の平和と安定のためには日米同盟が不可欠であり、自

衛隊とインド太平洋軍、そして在日米軍が共に同盟の強化にコミットし続けることが重要であるとの認識で一致するとともに、今後も共通の安全保障上の課題に的確に対応するため、日米防衛協力のあり方を継続的に議論していく必要性を強調しました。



那覇基地にて



那覇基地にて情勢等の説明を受ける様子



奄美警備隊の装備品展示を視察する様子



ヘリコプターから視察する様子



与那国沿岸監視隊の施設を巡視する様子



与那国島の西埼灯台より東シナ海を望む様子（1）



撮影時のみマスクを外しております

与那国島の西埼灯台より東シナ海を望む様子（2）



撮影時のみマスクを外しております

与那国島の西埼灯台より東シナ海を望む様子（3）



防衛省での再会



活発な議論を交わす統幕長と米太平洋軍司令官



主要参加者一同